

グリーン四国

No.1270
2026年
1月号

四国森林管理局長 年頭挨拶

【詳細は2頁】



寒風山

目次

・ 局長 年頭挨拶	2
・ ICT機器(中・長距離LiDAR)を用いた現地測量等の現地検討会	3
・ 再造林における獣害対策等の現地検討会を開催	4
・ 国民参加の森づくり活動	5
・ 第53回久万林業まつりに参加	6
・ 物部っ子 郷土の森を守る森林環境学習	7
・ 津野町産業祭へ参加	8
・ 自然と共生する心を育む高須小学校で「山の学習」	9
・ 幡多農業高等学校が千本山登山学習	10
・ 幡多農業高校生徒が森林環境学習をしながら三本杭へ登山体験	11
・ しまんと黒尊むらまつりへ参加	12
・ 現場からの便り	13
・ 四国森林管理局 国有林モニター募集!	14



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

T E L 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

年頭挨拶

四国森林管理局長 田中 晋太郎



新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より、森林・林業政策の円滑な推進と国有林野の適切な保全管理に、格別の御理解と御協力を賜っておりますことに對し、感謝申し上げます。

四国森林管理局が管理する国有林は、約19万ヘクタールで、四国全体の面積の約1割（香川県とほぼ同じ面積）に相当しております。その約7割を占めるスギ・ヒノキ等の人工林のほか、ブナやナラ類などの多様な森林が豊かな自然環境を形成し、水源涵養や山地災害防止、生物多様性の保全など、多面的な機能を発揮しています。

人工林の多くは利用期を迎えており、これを「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を確立し、次世代に引き継いでいくことが重要です。また、近年、地球温暖化や生物多様性といった地球規模の環境問題が社会的に注目される中、これらの課題には森林・林業が大きく関わっています。

四国森林管理局といたしましては、国有林野の公益重視の管理経営を一層推進するとともに、「新しい林業」の実現に向けた取組や、地域への貢献に向けた取組を推進することとしております。また、四国森林管理局の組織・技術力・資源を活用して業務に取り組み、四国の森林・林業・木材産業を盛り上げ、地域の活性化に貢献したいと考えております。

本年も、職員一丸となって業務に取り組んでまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本年が、皆様一人一人にとって実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

ICT機器(中・長距離LiDAR)を用いた 現地測量等の現地検討会

(局森林整備課)

近年多発する集中豪雨等による大規模災害に備え、災害発生個所の現地測量調査の迅速化や作業員の安全確保、民国連携の強化を図ることを目的として、四国森林管理局・各森林管理署等の主催で、ICT機器を活用した測量の現地検討会を開催しました。

令和7年9月29日(高知県香美市)から始まり、最終の11月27日(徳島県美馬市)まで、四国を6ブロックに分割して開催し、県、市町村、森林管理局、署の職員など約200名が参加し、昨今のICT関係の関心度の高さが伺える現地検討会となりました。

現地では、各参加者にICT機器を用いた現地測量を体験してもらい、その場で解析ソフトにより測量成果を確認する作業をおこない、短時間(3分程度)の現地測量で3D解析がその場で確認できることに驚く参加者が多くいました。

現地作業の終了後に会場を室内へと移動し、実際の災害復旧箇所のデータを用いて解析ソフトにより、3D解析をして横断面の作成やCADデータへの変換、縦断面の作成等、今まで現地において実施していた人力作業を、ICT機器を使用することで室内でも実施できるという体験をしてもらいました。

参加者からは、「今まで人力で実施していた作業が、ICT機器を用いることで大幅な負担軽減に繋がる。」との意見が多く聞かれました。

また、「是非、ICT機器を導入したい。」と前向きな意見も聞かれ、今回の現地検討会は大変有意義なものとなりました。

今後とも国有林として、様々な情報発信を積極的に行うことで民有林支援に繋げていきたいと考えています。



徳島県西部総合県民局美馬庁舎会議室
計測データの解析状況 (R7. 11. 27)



徳島県美馬市森林基幹道梶山内田線
ICT機器による計測状況 (R7. 11. 27)



愛媛県農林水産研究所林業研究センター研修館
計測データの解析状況 (R7. 11. 18)



愛媛県東温市荒谷山国有林上ヶ成林道
ICT機器による計測状況 (R7. 11. 18)

再造林における 獣害対策等の 現地検討会を開催

〈高知中部森林管理署〉

11月19日、高知県香美市物部町別府の杉ノ熊山70林班の3小班において、「防護柵と単木保護の新たな施工及びニホンジカ侵入の抑制の現地検討会」を開催しました。

当日は行政機関、林業事業者、森林管理局・署などから41名が参加し、急傾斜地での再造林における獣害対策と林地保全の課題について、現場を視察しながら意見交換を行いました。

高知中部森林管理署管内の国有林は、四国の中でも特に急傾斜地が多く、地すべりの多い地域であるうえ、ニホンジカの個体数は自然植生と共存できる水準の10倍以上と推定されており、食害による下層植生の消失が深刻化し、その結果、表面土壌の浸食が進み、ザレ地の拡大が大きな課題となっています。

今回の検討会では、こうした課題に対応するため、当署がこれまで取り組んできた獣害対策や林地保全対策を実際の事業地で応用した事業体から苦勞した点や改善点等の意見を聴かせて

いただきながらそれぞれの設置状況を確認し、お互いが意見を出し合い、全員参加型の現地検討会となりました。

事業地は木材を搬出し4年が経過した跡地ですが、ニホンジカの嗜好植物以外はほとんどなく、表面の土壌が少なくなっている状況です。また、対岸には下層植生の消滅によりザレ地が広がり大崩壊地となった箇所も見えることから、林地保全の重要性を強く感じるところです。獣害対策と林地の保全という二つの課題に対し、単木保護と防護ネットの二重施工とし、また林道際のネットを張ることができない区間は金網を設置しています。

立木利用の防護ネットは、100cm又は180cmのネットを区域によって使い分け、周囲にある立木に締め付けの影響を低減するためにゴムを使用して固定しています。

利点としては補修時の資材運搬を不要にし維持修繕の省力化につながる一方、立木選定の難しさや、施工の直線性が確保できない点が課題です。



単木保護では、耐雪仕様として補助支柱を追加し、植栽木への巻き込み防止を考慮して止杭2本を使い支柱・苗木の感覚を広げる工夫をしています。コストは4割増となるものの、補修を考慮すればトータルコストの抑制が期待できます。

金網ネットについては、従来ネットでは土砂の堆積や落石による破損がみられていたため、耐久性のある資材を使用しています。今回は施工がしやすい林道際に設置し、土砂が堆積してもネットを切り土砂を取り除いたあと補修可能という利点や、なにより耐久性が抜群である点が挙げられます。



設置時には支柱を立てる穴を削岩機で削孔することに労力がかかりましたが、ネットを張る作業は慣れればスムーズにできるということも報告されていました。

意見交換会では、民有林関係者から「この場所で行なわれたような再造林は民有林においてコストがかかり難しい」、「現在計画している森林経営管理制度を活用した森林整備箇所において、立木利用防護柵は応用できそうだ」、「今後の経過観察の中でどのような成果が出てくるのか興味がある。」などたくさんのご意見をいただきました。また、「現場」ごとに施工方法を変える発想は勉強になった。」、



「今後に向けて撤去を見据えた設置や資材の選定が必要である。」「初期費用が掛かり増しになるが、維持管理や補修点検などトータルコストの検証が必要。」「急傾斜地でザレ地化が拡大している現場にとつて林地の保全は重要だ。」といった声が参加者やそれぞれのセクションから寄せられました。

また、新たな取り組みとして当署が試行している高周波による野生動物撃退装置や、ヒトデ粉末による動物忌避剤の紹介もあり、集まったみなさんの注目を集めました。

最後に四国森林管理局森林技術支援センターの増田所長より「四国の中で獣害対策は待ったなしの課題となっており、各地で工夫しながら獣害対策の取組が展開されている。今回の事業地も地形に応じた工夫がされ、



立木利用のネットの高さを変えたり、コストを考えながら施工しているということ、みんなが共に学べたのではないかと、全体の中でも出されていたが、トータルコストをいかに抑えた山づくりができるのか大いに関心があるので引き続き取り組みを継続し、情報発信をしてももらいたい。」という講評がありました。

現在、再造林における獣害対策は様々な工夫が講じられていますが、膨大な設置コストや林業従事者の減少など大きな課題があります。

今回の現地検討会を通じ、獣害対策と林地保全を並行して進める再造林という共通課題について、参加者が同じ目線で考えるきっかけとなり、今後も民有林と国有林が連携し、森づくりと山の保全に継続して取り組んでいきたいと考えています。



植付作業「私もできる！」

香川森林管理事務所管内で締結している国民参加の森づくりの協定地2か所において活動が行われました。

○DCMの森 東雲辺山

11月8日、社会貢献の森「DCMの森 東雲辺山」において、植樹会が開催されました。DCM株式会社の社員及び御家族の皆様50名が参加し、現地準備を請け負った香川西部森林組合から5名と香川森林管理事務所からは7名が参加しました。

国民参加の森づくり活動

（香川森林管理事務所）

当日は天気にも恵まれ、すがすがしい空気の中、昨年に引き続きヤマザクラ600本の植付を行いました。小さな子どもたちも上手に鋏を使い植え付けを行うことができました。その後の森林教室では、昨年度植付した区域で下刈実施箇所と未実施箇所を設定し、それぞれの植栽木の成長やカラスザンショウやアカメガシワといった侵入木を観察し、樹高を比較しました。せっかく植えた苗が枯れないよう、植栽後の保育作業の必要性を知っていただく良い機会となりました。来年度以降も協定を継続し、下刈等の森林整備活動を実施していただく予定です。



丸太切り体験「いい匂いがする～」



木工体験「何を作ろうかな？」

○遊々の森 ドキドキ わくわくコース
 11月28日、「遊々の森 ドキドキ わくわくコース」において、森林教室が行われました。高松市立屋島東小学校より3年生7名と引率2名が参加し、香川森林管理事務所からは5名が参加しました。
 当日は風が吹き冷え込みましたが、林内は子どもたちの活気に溢れていました。木を切る感覚や匂い、大変さを感じてもらうため、ヒノキとツバキの2種類の丸太を用意し、子どもたち自身で鋸を使って輪切りにしてもらいました。子どもたちは鋸をひくのに合わせておがくずが出てくる様子を見ながら、一生懸命丸太を切っていました。ヒ

ノキの良い匂いが林内に広がり、子どもたちも大きく息を吸っていました。その後、自分で切った木を使って木工体験を行いました。林内で見つけてきた木の実や予め用意していた松ぼっくりを使い、思い思いの木工作品を作成していました。子どもたちからは、「木を切るのは疲れたけど楽しかった。」「ツバキよりヒノキの方が良い匂いがする。」等の感想があり、自然に触れて楽しんでもらえたのではないかと思います。

参加 第53回久万林業まつりに

（愛媛森林管理署）

10月18日、19日の2日間、「林業日本一のまち」を目指す愛媛県久万高原町において「第53回久万林業まつり」が開催されました。今年のテーマは「森呼吸く山の力を未来へつなげ」で、会場には、地元森林組合や林業研究グループなど森林・林業関係団体のブースのほか、木育キャラバンの木のおもちや体験、地場産品の販売、飲食店等の出店がありました。



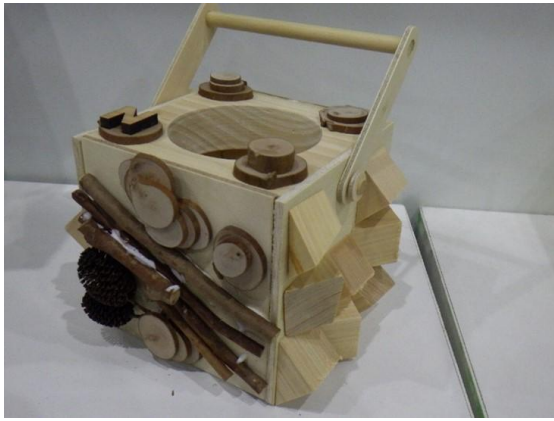
オープニング式典（河野久万高原町長）

期間中は晴天に恵まれ、2日間で1万人を超える来場者が訪れ、幅広い世代に森林や木材の魅力を発信するイベントとして大いに盛り上がりました。
 愛媛署は、実行委員会の一員としてイベントに参画し、「森林・林業に関するパネルの展示」及び「木工体験コーナー」のブースを出展しました。
 パネル展示コーナーでは、森林の働きや石鎚山のルート沿いに咲く高山植物、大正時代の国有林の写真、久万高原町に係る「四国の山々たんね歩記」などを紹介し、参加者は各パネルに興味深そうに観賞し、森林や林業への理解を深めていました。



ブースの様子

木工体験には、ペン立てとしても使用できる車やだるま落とし、スマホスタンド等の様々な木工品の組み立てキットをそろえ、小学生や子供連れのご家族、ご年配の方まで幅広い層の方が訪れ、順番待ちの行列ができるほどの盛況となり、その数は2日間で300人以上を数えました。参加者は受付で「どれにしようかな。これにする！」と嬉しそうにキットを選び、組み立てた木工品に、木の枝や松ぼっくり、木の端材等で飾り付け、ペンで好きな色を加え、キャラクターを描くなど、思い思いの作品づくりを楽しんでいました。どの作品も個性に溢れ、完成し



完成したオリジナル木工作品

た作品を「できたよ!どうかな?」と満足気に見せてくれる子供たちの姿に、参加した職員も心が癒されました。木工作品ならではの温かみに触れ、ブース内は終始和やかで明るい雰囲気になりました。

当署では、今後も木材や木製品との触れ合いを通じ、木材への親しみや木の文化への理解を深め、木の良さや森林利用の意義を学んでいただけるよう、木育(もくいく)の取組を推進してまいります。

物部っ子 郷土の森を守る 森林環境学習

〈高知中部森林管理署〉

11月7日、大栃中学校の要請を受け、森林環境学習を1〜3年生19名と教職員・地域教育支援員10名の参加で実施しました。

はじめに、当署と隣接している大栃中学校の教室で物部川の源流となっている白髪山をはじめ物部地域の山を説明し、大きな問題となっているニホンジカの食害被害の現状について理解を深めてもらい、シカの頭数調整の必要性を伝え、住民の10倍以上(1万5千〜2万頭前後)のシカが生息している現状及び自然との共生の難しさを考えてもらいました。

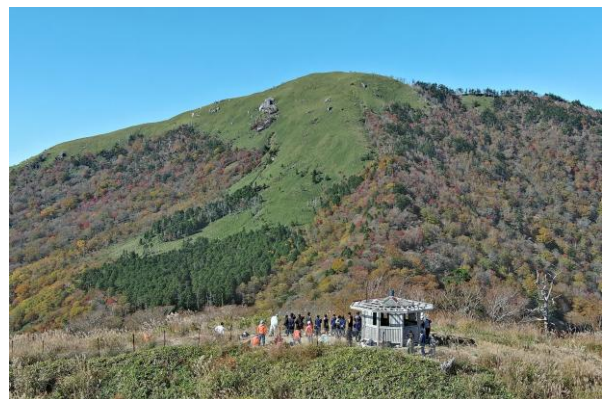


みやびの丘へ登山中

ほとんどの生徒が、「家の畑で見た。」「道路を走っていた。」「夜明け前によく鳴きゆう。」と直接シカを見ており、身近な動物と感じていました。

座学の後は、バスに乗り込み、1時間かかるシカ食害防護対策の実習地に向かいました。前日まで天候と寒さを心配していましたが、物部っ子(物部地域の児童の愛称)の願いが通じたのか、曇も風もなく絶好の登山日和となり、実習地までの登山道沿いのシカ食害の状況を説明しながら30分ほど登り、目的地のみやびの丘(1,559m)で別府峡の紅葉や、物部川の源流となっている白髪山などの三嶺の山々を見ながらの昼食を取りました。

午後からは、シカから樹木を守るための樹皮保護ネットを幹に巻きつける作業(通称「ラス巻き」)の開始です。職員から説明を受け、5班に分かれて作業を開始しました。みやびの丘周辺には、同中学校生徒が歴代食害防護対策を実施(前回は令和4年)して、シカ食害から守られてきた樹木もあり、今回はツツジへのラス巻きを実施しました。



みやびの丘からの物部川源流の白髪山



ラス巻き作業中

ツツジは横に広がっており、支柱を3〜5本立ててラス巻きをするのに最初は苦労していましたが、慣れてくると「あのツツジに巻きたい。」「ラスが足りない。」と作業に夢中になり、作業時間の1時間を待たず準備していた資材を使い切り、今回守ったツツジや先輩方が守ってきた樹木がシカ食害に合わないようお願い、森林環境学習を終りました。

最後に、生徒から職員へのお礼の言葉もいただき、郷土の森として5年後10年後にもここに訪れて育った森林を見守りたいと力強い決意を胸に帰路につきました。

津野町産業祭へ参加

〈四万十森林管理署〉

11月30日、津野町葉山運動公園総合センターにて、地域の文化や伝統をPRするため津野町産業祭実行委員会主催の「第21回津野町産業祭」が開催されました。四万十森林管理署としては初めての参加となり、職員8名が参加しました。

当日は秋晴れのもと多くの人で賑わう中、津野山古式神楽、よさこい踊り、南中ソラン、和太鼓演奏などのパフォーマンス、トゥクトゥク乗車体験、農林産物品評会出



品物販売、防災キャンドル作り、クリスマスリース作り、木の動物作り、原木しいたけコマ打ち体験など充実した内容でした。イベントは「お楽しみ抽選会」で締めくくられ、700人を超えるほどの来場者で終日賑わいました。



当署は松ぼっくりツリーを無料で作成するコーナーを出展しました。松ぼっくりツリー作りには小さな子どもからご年配の方まで引っぱり無しに訪れ、予想以上の大盛況ぶりとなりました。訪れた方々から

「カラフルで可愛くて松ぼっくりが選べない。」「松ぼっくりが大きいから見栄えが良い。」「自分だけのツリーが作れて嬉しい。」などの声が聞か

れ、それぞれ飾り付けを堪能していました。完成後にはたくさんのお礼や「来年もまた作りたいくらい楽しかった。」など、いづれもいきいきとした喜びの声に寄せられ、木工の楽しみを実感してもらえたようでした。

日頃森林や林業に触れることの少ない方々には、木材にふれる、木の香りを楽しむ良い機会になったことと思います。

当署としましても、今後もこのようなイベントに参加し、国林のPRを行うとともに、たくさんの方に木に親しんでもらいたいと思います。



自然と共生する心を育む 高須小学校で「山の学習」

〈高知中部森林管理署〉

12月1日、高知市立高須小学校において、高須小学校4年生3クラス84名を対象に「山の学習」山と生き物と人とのつながり」と題し、森下森林技術指導官が、森林環境教育の授業を行いました。

授業では、国有林の役割や森林管理署の仕事を紹介。ヘリコプターから撮影した香美市の雄大な山々の写真、木材の生産事業、苗木を植える造林事業、山のパトロール、獣害対策などといった業務内容や大型ドローン・高性能林業機械を用いたICT化の取り組みを紹介し、大きく変わった時に自然の中で、森や山で働くことはとてもやりがいのある仕事だという話に子どもたちは興味津々の様子でした。続いて高知県の代表的な山々について、白髪山や三嶺など当署管内の有名な山だけでなく、千本山やUFOLライン、高須小学校の目の前にある五台山など、山の美しい風景に子どもたちは感心している様子でした。また、白髪山に降った雨が高須小学校の校歌に歌われている舟入川の

源流であり、海まで流れている水の循環や、腐葉土によって山に水が蓄えられており、それが非常に貴重な資源であるということ、森と川と海はとても深い関係でつながっていることについて説明しました。

次に、森に暮らす動植物について、カモシカやニホンジカ、タヌキ、ヒキガエルなどを写真で紹介していき、ニホンジカによる食害で起こっている三嶺の森林被害について説明をしました。山腹にある「さおりが原」が30年前から現在にかけて下草が食べられ、無くなっていく写真を見て、子どもたちから驚きの声が上がっていました。



休み時間を挟み、持参したスギ・ヒノキの枝を子どもたちは手に取り、手ざわり、匂いを感じながら、高知県の森林林業・樹木等について学びました。

最後に、山で気を付けることについて紹介し、山には山の世界があり、神様を祀っている数々の山の紹介や、山の不思議にまつわる高知県各地の言い伝えに耳を傾けていました。

また、山の危険生物であるスズメバチや最近危険性が増しているツキノワグマへの対処方法などについての紹介もあり、安全に気を付けて山や自然に触れあってもらいたいということも伝えました。

子どもたちは、授業全体を通じて興味深い様子で真剣に聞くとともに、休み時間には、森下森林技術指導官が持参した鹿の角やタヌキの毛皮、アナグマの座布団がとても好評で、触ったり匂いをかいだりして楽しんでいました。

質問の時間では「山で死にかけたことはなかったか?」、「山によって祀られている神様は違うのか?」、「高知のいろいろな木が知れてよかったです。」など多くの意見が出されました。

今後も、学校の環境学習や自然普及活動に積極的に協力し、子どもたちが自然に対して興味を持ち、自然と共生する心を育むきっかけづくりに貢献できるよう努めていきたいと思えます。



幡多農業高校が 千本山登山学習

〈安芸森林管理署〉



登山口前の看板で説明

高知県立幡多農業高等学校グリーン環境科では毎年一年生を対象に、「最新技術見学実習」のプログラムの一つとして、千本山登山学習を取り入れており、本年も10月31日に計画され、当署に講師の依頼がありました。計画では学生7名、教職員2名の一行は、千本山の展望台までを、当署職員の案内のもと巡りながら、雄大な自然を五感で体感していただく予定でした。



橋の大杉周辺 天然ヒノキ

しかし当日は、未明から雨、風ともに強くなるタイミングがあるなど、あいにくの天候となり安全確保が図れず、楽しみにされていた登山を中止せざるを得ませんでした。

そんな中ではありませんでしたが、少しでも千本山・国有林の業務を知っていただくために、登山口周辺の安全な場所における見学と、森林事務所での座学に変更することとしました。

最初に、地域統括森林官より、千本山保護林の概要を説明した後、森の巨人たち百選に選ばれている「橋の大杉」や「天然のヒノキ」を見学してもらいました。生徒たちは、普段見る人工林のスギやヒノキとは全く違う、樹齢300年とも言われる天然



森林管理署の概要と
スマート林業紹介

林を見上げ、「幹の大きさや、樹高の高さ」に圧倒され驚いた様子でした。魚梁瀬合同森林事務所に移しての座学では、地域統括森林官からは安芸森林管理署の概要と業務内容について、治山技術官からは映像を交えたスマート林業について、それぞれ説明を行い、林業の現場にもICT技術が導入されていることなどについて学んでいただきました。その後の意見交換では生徒から、当署の同窓の先輩に対し、「公務員試験に合格するには、どのくらい勉強すればよいか?」、「当時の恩師はどんな感じでしたか?」などの質問が多く、大変盛り上がりました。今回の体験を通じて林学や、自分

の将来像等について、少しでも参考になればと感じました。当署では、これからもレクリエーションの森を通じて、森林・林業の普及活動や、緑の大切さなどのPR活動に取り組んでいきたいと考えています。



幡多農業高校生徒が 森林環境学習をしながら三本杭へ登山体験

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

○概要

高知県立幡多農業高校から、昨年に引き続き国有林で取り組んでいる自然再生事業の現地学習について依頼を受け、本年度もグリーン環境科3年生15名を対象に、野生鳥獣対策の必要性や自然環境問題について学習を行いました。

○自然再生事業説明（黒尊山）

まず初めに黒尊山国有林10林班の自然再生事業の説明をしました。シカ食害などにより成林が見込めない林地が散在している状況を踏まえて、各ボラunteィア団体等と連携し、有用樹の刈り出し、郷土樹種の植栽、遊歩道の整備等により、多様性のある森林再生を目指して取り組んでいることを説明しました。また、当地では、植栽した樹木が20年以上経過する中、シカ食害防止用の単木保護材が幹部分を圧迫しており、保護材を順次ラス巻きに交換していく必要があること、三年前の3年生には保護材撤去作業を体験してもらったことも説明しました。

○自然再生事業説明（滑床山）

滑床山国有林のブナを主体とした広葉樹林分は、シカの食害を受けて植生が衰退し、林地荒廃に繋がる恐れがある場所であるため、平成18年度からシカ防護網や柵などを計17箇所、総延長5、620m設置してきたことを説明しました。また、柵の内側と外側で植生の繁茂状況が異なることを確認してもらいました。



鹿防護網補修では最後にアンカーを確実に打ち込み作業完了！

○自然再生事業体験学習

次に、植生の衰退によって裸地化が深刻な三本杭山頂付近において、関係機関やボランティアの協力も得ながら、ミヤコザサの移植作業やシカ防護網設置を行ったこと、また、当センターの定期的な保守点検作業などにより植生が回復した状況について過去との比較写真で説明を行うと、その回復ぶりに皆驚いている様子でした。

○自然再生事業体験学習

帰路では、シカ防護網の点検作業や自動撮影カメラの設定などの体験を行いました。この作業体験により、植生の保護を確実にを行うことが自然環境の維持につながる、国土保全の観点からも重要であることを理解してもらえたとおもいます。

○おわりに

閉講式は、帰路途中の黒尊川キャンプ場前で行いました。実質半日程度で往復約6kmの登山などを行う強行スケジュールではありますが、生徒達は皆満足気な表情をみせながら黒尊渓谷をあとにしました。



センサーカメラデータ回収と再設置確認作業体験



ミヤコザサが鹿防護網で保護されている状況を説明

しまんと黒尊むらまつり へ参加

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

○概要

11月15日、四万十市西土佐奥屋内の黒尊親水公園で、自然との共生や地域の盛り上げを図る黒尊川流域の住民グループしまんと黒尊むらと四万十くろそん会議の主催により、二年ぶりに「しまんと黒尊むらまつり」が開催され、快晴、行楽日和となったこの日、地域内外から団体客など多くの方が訪れ、同会議のメンバーである当センターも会場設営や出展などの協力をしました。

○木工体験コーナー

当センターは、恒例の「木工体験コーナー」を設け、イスノキ製のマイ箸作りやスギ板製のクリスマスリース作り体験を実施しました。コーナーは、老若男女参加者約百名が訪れ、いっぱいとなり大盛況でした。

○紅葉狩りツアー

まつり会場から、五キロ上流にある紅葉の名所「神殿橋」行きバスによる恒例の紅葉狩りツアーも行われ人気でした。会場は終日大賑わい、笑い声が山間に響き、深まりつつある黒尊

川流域での一日を満喫いただけたいと思います。



木工体験コーナーの様子

○物産品販売

会場に訪れた皆さんは、アユの塩焼きやばら寿司、ツガニの姿煮、その他黒尊川（四万十川の主な支流）や四万十川流域で収穫された産品等を味わうことができ、特に、地元産のもち米を臼で搗いたお餅の実演販売コーナーには長蛇の列ができていました。

○その他のイベント

地元の和太鼓パフォーマンステームによる「みのり太鼓」の演奏や、西土佐中学校吹奏楽部の演奏、よさこいチーム「いなん」（土佐清水市）、と「幡多舞人」（黒潮町）による、よさこいステージイベントなどを楽しみ、最後は地元特産品を懸け



しまんと黒尊むらまつりの様子

たジャンケン大会で盛り上がっていました。

○おわりに

当センターでは、「四万十くろそん会議」のメンバーとして今後も関連イベント等に準備段階から参加、協力し、黒尊地域の活性化に貢献しつつ、自然再生の重要性や木材の良さをPRしていきたいと考えています。



現場からの便り

高知中部森林管理署 別府森林事務所

森林官 安光 圭一

高知中部森林管理署別府森林事務所は、高知県中部の香美市物部町（旧物部村）に所在し、香美市役所物部支所（物部町大栃）から車で約25分、物部川沿いを上った場所にあります。

管内にあるべふ峡では、剣山国定公園の物部川源流域にある渓谷で、四季を通して変化に富んだ風景が楽しめます。紅葉の名所として有名で、山一面が紅葉に染まる秋の美しさは格別です。周辺には整備された遊歩道が続いており散策が楽しめます。当事務所は物部川流域の国有林約4850haを管理しています。別府山国有林には、緑の回廊・鳥獣保護区・保健保安林に指定されている森林が数多くあります。三嶺に向かう国有林には、鹿による樹皮の食害を防ぐために「三嶺の森をまもるみんなの会」等のボランティア団体と協力して防護ネットや単木保護を施している森林があります。また、石立山には緑の回廊や保健保安林があり、毎年多くの登

山客が登山に訪れます。

当事務所が管理する国有林には収穫期を迎えている森林があり、立木販売や丸太の生産事業を実施している箇所があります。そうした事業に関連する調査や監督業務のほか、林道や境界の保全管理業務等に、森林官と森林技術員及び非常勤職員の3名体制で取り組んでいます。なお、この時期は収穫箇所の毎木調査業務・測定業務に励んでいます。昭和50年代、当事務所管内には1事業所、1貯木場、2担当区があり、50名を超える職員が働いていました。他の森林事務所でも同様のことが言えますが、現場を知る職員が減少していく中で、今後は、境界巡視や林況調査等にドローンを活用する等、ICT化を推進し業務の効率化に努める必要があると考えます。私は、これまでの経験に加えICT等新たな技術を取り入れることで、引き続き国民の森林を守っていききたいと考えています。



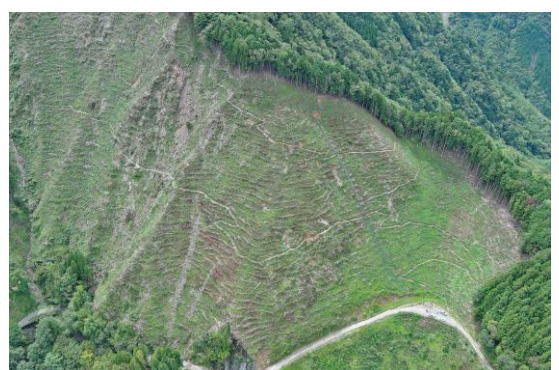
べふ峡



別府森林事務所



金網ネット



新植箇所



四国森林管理局

国有林モニター募集！



対象者

森林・林業や国有林に関心のある方
(四国4県に在住する18歳以上の方)



活動内容

- 国有林の取組を紹介する
現地説明会への参加
- モニター会議への参加
- アンケートへの回答



このほか、モニターの皆様には広報誌や各種情報を提供させていただきます。



任期

令和8年4月～令和10年3月（2年間）

※詳細は裏面を御確認ください



応募方法：左記申し込みフォームより

URL <https://forms.office.com/r/gpXBmwmR1X>

締切：令和8年3月10日(火)17時

お問い合わせ

四国森林管理局 総務企画部 企画調整課「国有林モニター」係
Tel:088-821-2160 mail:shikoku_kikaku@maff.go.jp



国民の森林・国有林